



平成13年度県公立高校の募集計画等を発表

全日制普通科で隣接学区入学制を導入

表1 普通科の募集人員・隣接学区からの許容人数 (単位:人)

通学区	学校名	学科	募集学級	募集定員		推薦選抜		一般選抜	
				定員	隣接学区の許容人数	募集人数	隣接学区の許容人数	募集人数	隣接学区の許容人数
第4学区 (三条・西蒲) 隣接学区からの 入学許容率 25%	白根	普通	5	200	50	30	7	170	43
	加茂	普通	8	320	80	96	24	224	56
	三条	普通	9	360	90	54	13	306	77
	三条	普通	9	360	90	54	13	306	77
	燕	普通	6	240	60	72	18	168	42
	巻	普通	9	360	130	108	39	252	91
	西川竹園	普通	2	80	40	12	6	68	34
第3学区 (新潟) 隣接学区からの 入学許容率 15%	分水	普通	4	160	80	48	24	112	56
	新潟	普通	9	360	54	54	8	306	46
	新潟中央	普通	9	360	54	108	16	252	38
	新潟南	普通	10	400	60	60	9	340	51
	新潟江南	普通	8	320	88	48	13	272	75
	新潟西	普通	9	360	94	54	14	306	80
	新潟東	普通	8	320	48	96	14	224	34
	新潟北	普通	8	320	48	96	14	224	34
	新潟向陽	普通	7	280	42	84	12	196	30
	黒埼	普通	4	160	24	48	7	112	17
第2学区 (新津・五泉) 隣接学区からの 入学許容率 20%	沼垂	普通	6	240	36	36	5	204	31
	高志	普通	7	280	42	84	12	196	30
	新津	普通	8	320	64	96	19	224	45
	五泉	普通	4	160	32	48	9	112	23
第1学区 (村松)	村松	普通	6	240	48	36	7	204	41

表2 第2・3・4学区の普通科以外の募集人員 ※パーセント条項適用なし (単位:人)

学区	学校名	学科	定員	学区	学校名	学科	定員	学区	学校名	学科	定員				
第2学区	五泉	商業	80	第3学区	新潟東工	機械	40	第4学区	西川竹園	生活文化	80				
		情報経理	40			電子機械	80			商業	160				
	機械	40	電気			80	情報経理			40					
	機械システム	40	電子			40	機械			80					
	電気	40	商業			160	電子機械			80					
	電子	40	会計			80	建設工学			40					
第3学区	新潟工業	理数	40	新潟商業	高志	情報処理	80	三条工業	三条商業	商業	200				
		食物	40			国際教養	80			情報経理	40				
		音楽	40			機械	80			国際教養	80				
	衛生看護	40	電気			40	機械システム			80					
	新潟中央	機械	80			巻農業	巻工業			農業	40	燕工業	加茂農林	電気	40
	新潟江南	電気	40							園芸	40			生産技術	120
新潟工業	工業化学	40	造園	40	環境緑地			40							
	土木	80	食品流通	40	環境緑地			40							
	建築	40	電気	40	農業経済			40							
	建築設備	40	電子	40	生物工学			40							

新潟県教育委員会は、平成十三年度の公立高校募集計画と学校・学科ごとの選抜方法を発表しました。これは、五月一日号でお知らせした公立高校普通科の通学区(学区)の変更が行われ、全日制普通科では隣接学区からも入学できる「入学許容率」(パーセント条項)を初めて導入するものです。

本市では、町村合併の際、従前の学校選択を保障するという観点で設定された共通区域が廃止になることから、本市の高校進学の実態に合った特例措置が講じられるよう、県や

県議会に要望してきました。新潟県教育委員会は、学区改正に伴う各地から出された要望等に応じて、県内の中学三年生全員を対象に進路校調べを実施。その結果、今回の特例措置として、新潟江南、新潟西、分水、巻、西川竹園の五校で、

隣接学区からの入学許容人数を増員しました。(表1)なお、普通科以外の学科は、県内一円で、どの学区からも受検することができ、パーセント条項の適用もありません。(表2) ※表1・2とも第五学区等掲載略

これは、三地区の自治会代表と小・中学校のPTA会長、南部中学校建設促進協議会の代表、新飯田・庄瀬・白根第一中学校長などからなる「(仮称)南部中学校の校名・校章制定委員会」で話し合われ、決定されたものです。同委員会は、十月三十一日の第一回目において三地区の住民や児童、生徒からの校名募集を

率(パーセント条項)を初めて導入するものです。本市では、町村合併の際、従前の学校選択を保障するという観点で設定された共通区域が廃止になることから、本市の高校進学の実態に合った特例措置が講じられるよう、県や

新しい中学校校名は「白南」に決定

(仮称)南部中学校の校名・校章制定委員会

平成十五年四月の開校を目指し、茨曾根(新村)地区に建設事業が進められている「(仮称)南部中学校」の校名が、「白南中学校」に決定しました。これは、三地区の自治会代表と小・中学校のPTA会長、南部中学校建設促進協議会の代表、新飯田・庄瀬・白根第一中学校長などからなる「(仮称)南部中学校の校名・校章制定委員会」で話し合われ、決定されたものです。同委員会は、十月三十一日の第一回目において三地区の住民や児童、生徒からの校名募集を



県は、十二月一日、平成十三年年度の米の作付面積のガイドラインと生産調整目標面積の配分を、市町村に対して行いました。生産調整目標面積は、米価低迷や米余りの現状を踏まえ、過去最大規模となります。白根市への生産調整目標面積は、

平成13年度生産調整目標面積決まる

目標面積1,361.38ヘクタール

従来分一、二八一・六六ヘクタールと、緊急拡大分として新たに七九・七二ヘクタールが加わった計一、三六一・三八ヘクタールとなります。また、来年度から、需要に応じた米の計画的生産を一層推進するため、米の作付面積のガイドラインも併せて配分されます。市における米の作付面積は、二、九一九・一三ヘクタールとなります。

市では、農協等関係機関と協議し、来年一月末から二月初めに予定している地区別説明会で、農家への配分を行います。

「政令指定都市へ向けた合併」を視野に

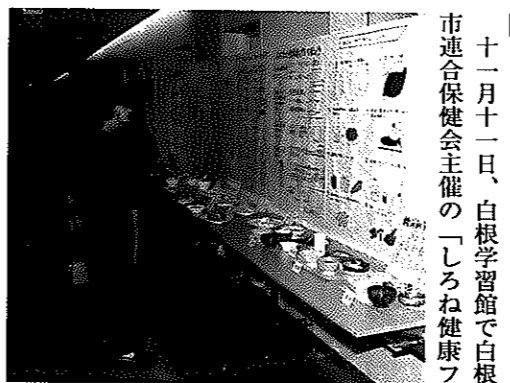
新潟都市圏の将来像を考えるシンポジウム

十一月十四日、横越町総合体育館で「新潟都市圏の将来像を考えるシンポジウム」が行われました。このシンポジウムは、新潟都市圏総合整備推進協議会を構成する両津市を除く八市町(新潟市・新津市・白根市・豊栄市・聖籠町・横越町・亀田町・黒埼町)の首長が一室に会し、新潟都市圏の一体化、市町村合併の必要性和効果、住民自治といった、地域社会のあり方について住民の皆さんと一緒に考えようという行われているもので、今年で三回目です。基調講演の後に行われたパネルデ

イスカッションでは、「いがたの都市のまとまり/新潟都市圏の一体化と地域社会を考える」をテーマに、各首長が持論を展開。長谷川新潟市長が「病院や文化施設の利用など、生活面では広域化が進んでいる。生活圏が一体化している地域に都市圏を形成すべきで、政令指定都市を目指すことには賛成」と述べたほか、竹内白根市長は「白根市は、新潟市と県央地域を結ぶ位置にある。学区問題の解消や拠点性の向上のために、合併の様々な項目について今後検討したい」と話しました。

健康について考える

しろね健康フェア2000



十一月十一日、白根学習館で白根市連合保健会主催の「しろね健康フェア2000」が開催されました。会場には、各地区保健会の活動状況の紹介や健康・介護に関するさまざまなコーナーが設けられ、多くの人が訪れました。食生活コーナーでは、市販のお菓子・飲み物に含まれている糖分を、実際に砂糖の量で表示するなど、訪れた人の関心を引いていました。訪れた人は「ジュース一缶に角砂糖五個ぐらいついてるなんて、初めて知りました。子どもたちにも見て知ってもらいたいです」と、話してくれました。